

共同運営部門：リハビリテーションセンター

＜スタッフ紹介＞

役 職	スタッフ名
センター長兼リハビリテーション科部長	小野 秀文
副センター長兼循環器内科主任部長 兼心臓・血管副センター長 兼リハビリテーション副センター長 兼医療安全管理副室長兼産業医	習田 龍

＜関連部署＞

部署名	部署名
リハビリテーション科	リハビリテーション部門

＜特色と概要＞

リハビリテーションセンターは、リハビリテーション科医師2名、理学療法士26名、作業療法士13名、言語聴覚士9名、医療事務1名で構成され、運営を行っている。当センターでは、急性期病院の機能特性や地域の役割を考慮して臨床チーム(脳、循環器、整形外科、救命救急、がん、周産期、小児)を構成し、また、認知症、糖尿病、摂食嚥下、廃用にも力を入れ、専門的なリハビリテーションを提供している。PTは歩行などの基本動作能力の向上、OTは食事動作やトイレ、衣服の着脱などIADL動作向上、高次機能障害やせん妄、認知機能障害患者へのリハビリテーション介入を行っている。STは言語機能や摂食機能障害、コミュニケーション障害に対し、評価やリハビリテーションの提供を行い、特に、摂食・嚥下障害看護認定看護師とも連携し、安全な早期経口摂取を行っている。嚥下造影検査も積極的に行い、客観的評価のもと、リハビリテーションを行っている。当院の特徴として、救命救急センターを併設しており、重症患者に対しても救命センター医師と連携し、早期リハビリテーション介入を行っている。また、当院は脳卒中、急性心筋梗塞などの重症患者を積極的に受け入れており、それらの患者に対しても早期リハビリテーション介入を行い、早期離床、早期日常生活への復帰に寄与している。心疾患患者については、退院後、外来にてエルゴメーター、レジスタンストレーニングを、栄養指導、生活指導とともにを行い、運動能力向上、再発予防に努めている。外来心臓リハビリテーション実施前に、ほぼ全例に心肺運動負荷検査を行い、客観指標に基づいたリハビリテーションを実施している。なお、外来心臓リハビリテーションについては、他院からの紹介患者も受け入れている。入院患者への継続したリハビリテーション提供のために、土日祝日にもリハビリテーションを実施している。

＜実績＞

診療支援局のリハビリテーション部門を参照いただきたい。

＜今年度の成果と来年度への抱負＞

PT部門では、小児チームにより作成された哺乳プロトコルを用いて、看護師とも共同して、新生児に対する哺乳確立を引き続き行っている。当初、医師、看護師、PT・STとプロトコルの進め方に認識の差異があったが、日頃からのコミュニケーション、毎週のカンファレンスを通じて、方針に対し、同じ方向を向くことができている。周産期チームでは、妊娠糖尿病に対するリハビリテーションを開始していたが、さらに糖尿病科、産婦人科医師と協力し、多面的な介入を行っている。循環器チームにおいては、外来心臓リハビリテーションのエントリーを増やすために、パンフレットを作成している。理解を深めることで、エントリー数は増加している。今後、枠数の拡大も行っていく方針である。人工関節置換術後の患者については、パンフレットを作成し、術後の注意点をわかりやすく患者に示し、指導に努めている。OT部門においては、各患者に応じたADLシートを作成して病室に掲示することで病棟との情報共有化を行っている。また、集中治療病棟から早期介入を行い、せん妄予防にも努めている。ST部門では、これまで通り、摂食・嚥下支援チームの中心的役割を担っている。今までは、主にSTがEAT-10とともに、入院患者の嚥下初期評価を行うことが多かったが、病棟看護師と連携して誤嚥を防ぐために、新たに嚥下スクリーニングフローチャートを導入し、さらなる予防に努めている。